



アレルギー＆免疫に興味がある、学びたい、あなた

見学いつでも歓迎！！

三重病院 アレルギー＆免疫 フェロー募集

アレルギー＆免疫フェロー募集



- 卒後5年目以降で、そのうち小児科臨床経験が2年以上ある方
- 小児科医＆アレルギー科 常勤医として勤務。希望により週に1-4回や短時間勤務など非常勤医としての勤務も可。
- 正規職員の給与が支給、年二回賞与あり、3LDK職員宿舎あり、隣接保育園あり、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当あり
- 土・日・祝日は当番医以外は勤務なし。
- 月に当直3回、日直1回程度（病棟回診＋ER対応あり）、待機2回
- 各種事情により、週に数回の勤務も可能（要相談）
- 小児科一般外来、アレルギー外来、ER対応、一般小児科入院（気道感染症、胃腸炎、川崎病、など）、アレルギー科入院（食物経口負荷試験、喘息、アトピー性皮膚炎、経口免疫療法、経皮免疫療法、など）を担当
- 臨床研究部に所属し、臨床研究、基礎研究を行い、上級医指導の下で論文執筆、学会発表を行う。
- 各所属機関からでも1年間の短期留学から複数年まで在籍が可能

NHO 医師の処遇

National Hospital Organization (NHO)

給料のしくみ



国立病院機構の

医師の給与は、
独自の給与規程に基づき支給
医長以上は、
業績が給与に反映される年俸制の仕組みを導入

年収について

年収見込（総支給額）

平成30年度平均

院長 約2,050万円
(うち、業績年俸約580万円)

副院長 約1,960万円
(うち、業績年俸約600万円)

部長 約1,850万円
(うち、業績年俸約520万円)

医長 約1,680万円
(うち、業績年俸約350万円)

医師 約1,520万円
(うち、業績手当約280万円)

年俸制

※ 超過勤務手当などの実給手当を含めた総支給額の平均となっています。

各種手当

～業務の条件による手当の支給～



業務によって支給される手当

生活給手当

内 容	
医師手当	○ 勤務する地域に応じた額（357,900円～150,400円）を支給（最大45年間支給） ○ 専門医等の資格1つにつき月額5,000円を加算（2つまで）
業績手当	○ 一般医師に対し、年間で基本給の約4.2月分支給（6月・12月の2回に分けて支給） ○ 医長以上には、業績年俸を支給
宿日直手当	宿日直勤務に従事した場合、勤務1回につき、20,000円を支給
救急呼出等待機手当（オンコール手当）	救急呼出に備えて自宅等において待機した場合に、待機1回につき、5,000円を支給
救急医療体制等確保手当	○ 2次救急・2次救急医療を実施する病院において夜間・休日に救急医療業務に従事した場合に、勤務1回につき18,000円～3,000円を支給 ○ 分科業務に従事した場合に、1回につき10,000円を支給
役職手当	医長以上の役職者に対し、月額148,100円（副院長）～96,700円（医長）を支給
役職職員特別勤務手当	○ 役職者が宿日直勤務中又は呼出待機の際に診療業務を行った場合（深夜帯を除く）、勤務1回につき、23,250円～12,500円を支給 ○ 役職者が臨時又は緊急の必要により休日等に勤務し、代休をとらなかった場合、勤務1回につき、23,250円～12,500円を支給
附加勤務手当	公立病院の診療援助等（救急医療等）に従事した場合に支給
特殊業務手当	I O U病棟や重症心身障害児（者）病棟や脳ジス病棟等の業務に従事した場合に、月額35,400円～17,700円を支給
夜間看護等手当	交替制勤務に従事した場合に、深夜帯勤務1回につき9,900円～2,900円を支給
派遣手当	○ 医師確保が困難な機構内の病院の診療援助に従事した場合に、1日につき20,000円を支給 ○ 上記のほか、機構内の病院の診療援助確保等のための診療援助に従事した場合に、1日につき10,000円を支給
超過勤務手当	時間外勤務に従事した場合に支給
年度末賞与	当該年度の医療収支が特に良好な病院において3月に支給
ヘリコプター搭乗救急医療手当	機内で行う診療等に従事した場合、勤務1回につき、5,000円を支給
時間外手術等従事手当	診療報酬上、本手当支給が必要な病院において、時間外等に開始される手術等に従事した場合、手術等1回につき、5,000円又は2,600円を支給
支援団休業務手当	医療事故調査のための委員会への委員としての参画等に従事した場合に、1日につき20,000円又は10,000円を支給
扶養手当	扶養親族のある職員に対して支給（配偶者：13,000円、子、父母等：8,500円） ※16才～22才の子については、1人につき5,000円を加算
住居手当	賃貸：～27,000円 ※機構が用意する宿舎に入居する場合は、住居手当は支給されません
通勤手当	自動車等：2,000円～31,600円 交通機関等：～55,000円
単身赴任手当	基礎額30,000円を支給 （職員と配偶者の住居が100km以上の場合は、8,000円～70,000円を加算）
地域手当	基本給の16%～20%支給

(R1.8.1現在)

子育て支援

◆隣接施設の保育園があります。（月額約3.2万円）

- 0～5歳の少人数（～10名程度）ですが、3～5名の保育士さんが日々楽しく保育してくださいます。
- 歌を歌ったり、広い芝生で走り回ったり、病院周辺をお散歩したりしています。
- 外部からリトミクの指導もあります。
- 授業参観もあります。

◆勤務時間の相談可能

- 業務は基本的に就業時間内に終わりますので、保育園の送迎も問題ありません。
- 相談は必要ですが、ご希望に合わせて勤務時間の調整が可能です。
- 「週の半分だけ働きたい！」なども、ご相談で対応できます。

※状況により、給与の調整、非常勤扱いあり



三重病院の環境

- 同じ敷地内に

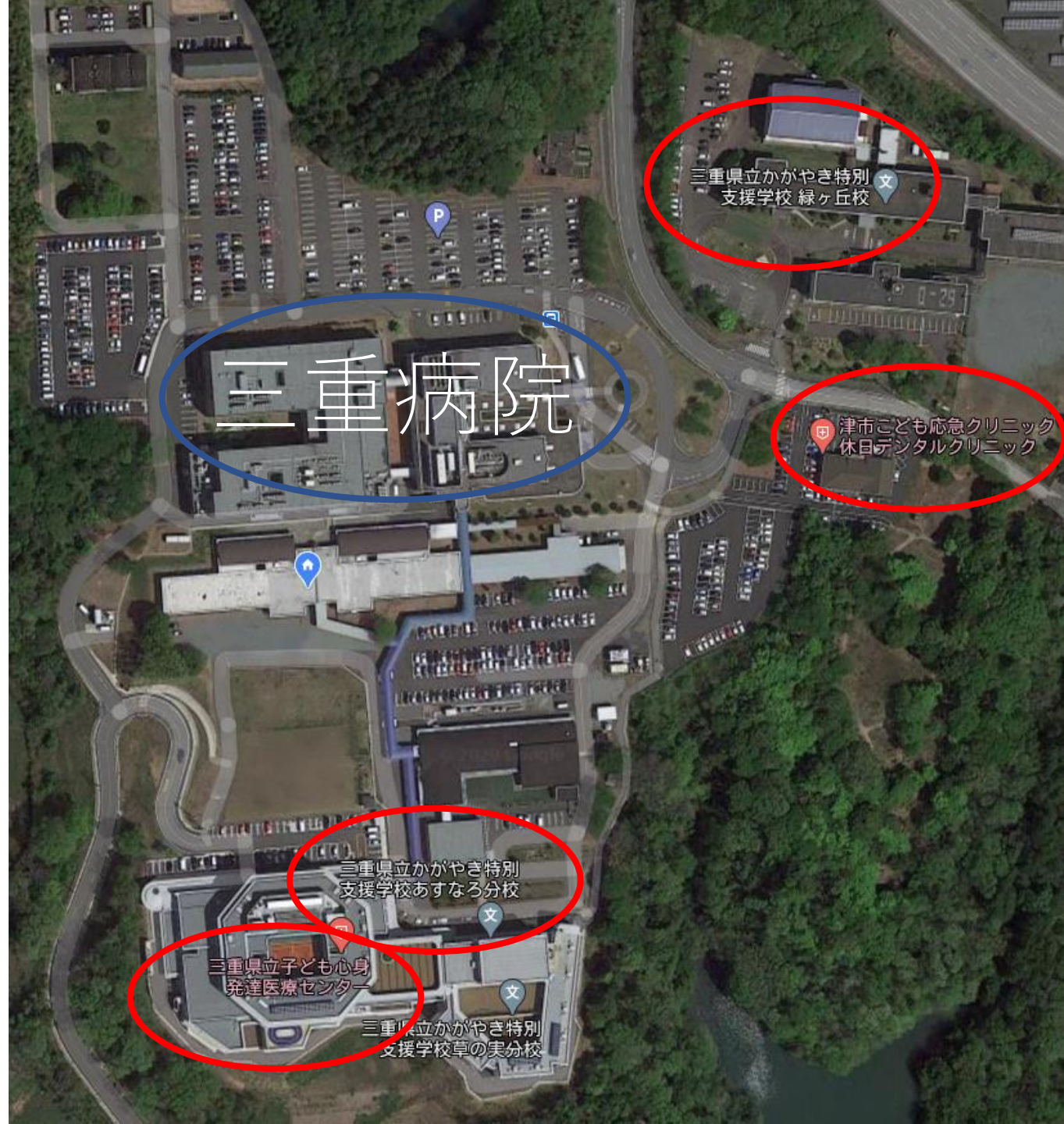
- こども心身医療センター
- 特別支援学校
- 応急診療所

- 成り立ち

もともとは国立療養所病院
周囲は自然に囲まれ緑が多く、
四季を楽しむ。

- 周囲との協力

- 休日夜間救急も同施設内にあり、入院が必要な場合には三重病院で対応。
- 児童精神で長期管理が必要な場合には子供心身で対応。
- 小学校が併設されており、治療しながら登校が可能。



三重病院組織図

免疫・アレルギー

小児一般・救急

感染症・ワクチン
国際協力

慢性疾患
重症心身障害

小児耳鼻科

小児整形
小児外科

神経・児童精神
肥満・糖尿病・食
思不振症

口腔外科

膠原病・リウ
マチ

三重大学

- 血液・腫瘍
- 心臓
- NICU

三重中央 医療センター

- NICU（極低
出生体重児）

三重大学、三重中央医療センター、こども心身医療センターと協力しながら、三重県内のほぼすべての小児疾患に対応。

三重病院の紹介

- 三重病院の紹介をさせていただいた動画を見ることができます。ぜひ参照ください。
- <https://www.facebook.com/profile.php?id=100057063835548>



国立病院機構 三重病院 アレルギー科

3月23日 · 🌐



国立病院機構 三重病院の施設、働きを動画にまとめました。研修をお考えの先生方に参考にしていただければ幸いです。

※

2021年3月作成のため、動画内では2021年3月時点での三重病院の情報をお示ししています。

藤澤院長は2022年4月以降は特別診療・研究役として勤務されます。

#三重病院
#アレルギー
#フェロー
#小児科
#藤澤隆夫
#長尾みづほ
#新年度



三重病院研修の いいところ できること



アレルギー診療

- アレルギー専門医認定施設のため、専門医取得ができる。
- 総合アレルギー科医として、小児だけでなく、成人アレルギー疾患も経験可能。
- アレルギー初診外来、再診外来、食物経口負荷試験、経口免疫療法、経皮免疫療法、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などの治療計画を、上級医のサポート（カンファレンスで相談）を受けながら、自分の判断で行える。
- 前小児アレルギー学会理事長である藤澤院長と日々のカンファレンスで学べ、最新のアレルギーの情報を得られる。

小児科医として

- 小児科医としての仕事（当直、ER対応など）も行うため、小児科医としても維持・成長が可能。
- 希望により、慢性疾患の長期トータルケア（肥満症、心身障害など）を学べる。

研究

- 多数の臨床研究に参加可能
- Excel、Access、Prism、SPSSなどの使い方、医学臨床統計学を初歩から学べる。
- 論文作成の補助・指導が受けられる。
- 三重大学との提携で、基礎研究も行うことができる。
- 臨床研究部の技師から手技を学ぶことができる（PCR、ELISA、電気泳動、BATなど）
- 国際学会を含め、多数の発表の機会（市民講座、喘息キャンプなども含め）、海外（韓国、台湾など）での短期研修が行える。
- 海外留学することができる

環境・人間関係

- 研究室に自分のデスクをもらい、研究に集中できる環境がある。
- 同じ志を持った仲間が集まり、仲良く、食事、飲み会、などがたびたび開催され、楽しく、おいしいものがたくさん食べられる。
- 上司が非常に温和で優しく、臨床、研究ともに相談によく乗ってくれる。
- 意外とフェリーで中部国際空港は近い。
- 日本全国から国内研修に来ている先生がいるので、遠方の先生ともお知り合いになれる。
- 海外留学生とコミュニケーションし、英語の勉強になる。

三重病院のダメなところ・・・

- 田舎、虫が多い、携帯の電波が悪い、ATMがない。
- 院内は売店しかなく、コンビニが遠い（徒歩15分）。
- 最寄りの主要な駅（県庁所在地）が徒歩70～80分、バスは1時間に1本。
- 当直室のシーツは土日は自分で交換。
- シャワーがなかなか、お湯にならない。
- 病院が広すぎて、冬は寒い、夏は暑い。
- 時々、藤澤先生が無茶ぶりだ。

（※ちゃんとフォローしてくれます）

Challenging!



フェローの一週間の例

	月	火	水	木	金
午前 8:30	小児科初診 外来	経口負荷試験	急性期病棟	研究	外来応援
午後 13:00	アレルギー 外来	研究	時間外・救急患 者対応	アレルギー 外来	アレルギー 外来
夕方 16:00	アレルギー カンファレンス	アレルギー カンファレンス	リサーチ カンファレンス	アレルギー カンファレンス	
		アレルギー＆免 疫抄読会 (AM8:00)	小児科抄読会 (PM12:30)		

時短勤務例

	月	火	水	木	金
午前 8:30	小児科 初診外来		OFC		アレルギー 外来
午後 13:00	アレルギー 外来		研究		アレルギー 外来
夕方 16:00	アレルギー カンファレンス		リサーチ カンファレンス		
		アレルギー & 免疫抄読会 (AM8:00)	小児科抄読会 (PM12:30)		

育児をしながらでも研修することも可能です

※院内保育園あり、1歳までは30分×2回の保育時間も可能



実験室

臨床研究部の技師さんと一緒に
検査・基礎研究を行えます。
BAT、PCR、二次元泳動など

若手の研究室

各地からお土産が届く
こともあります★

研究室の様子



大きなデスクが
自分用にあります
(^^)

当院で研修した先輩方

研修者（卒業者）の出身大学一覧

札幌医科大学

岩手医科大学

横浜市立大学

浜松医科大学

福井大学

岐阜大学

名古屋市立大学

三重大学

滋賀医科大学

奈良県立医科大学

近畿大学

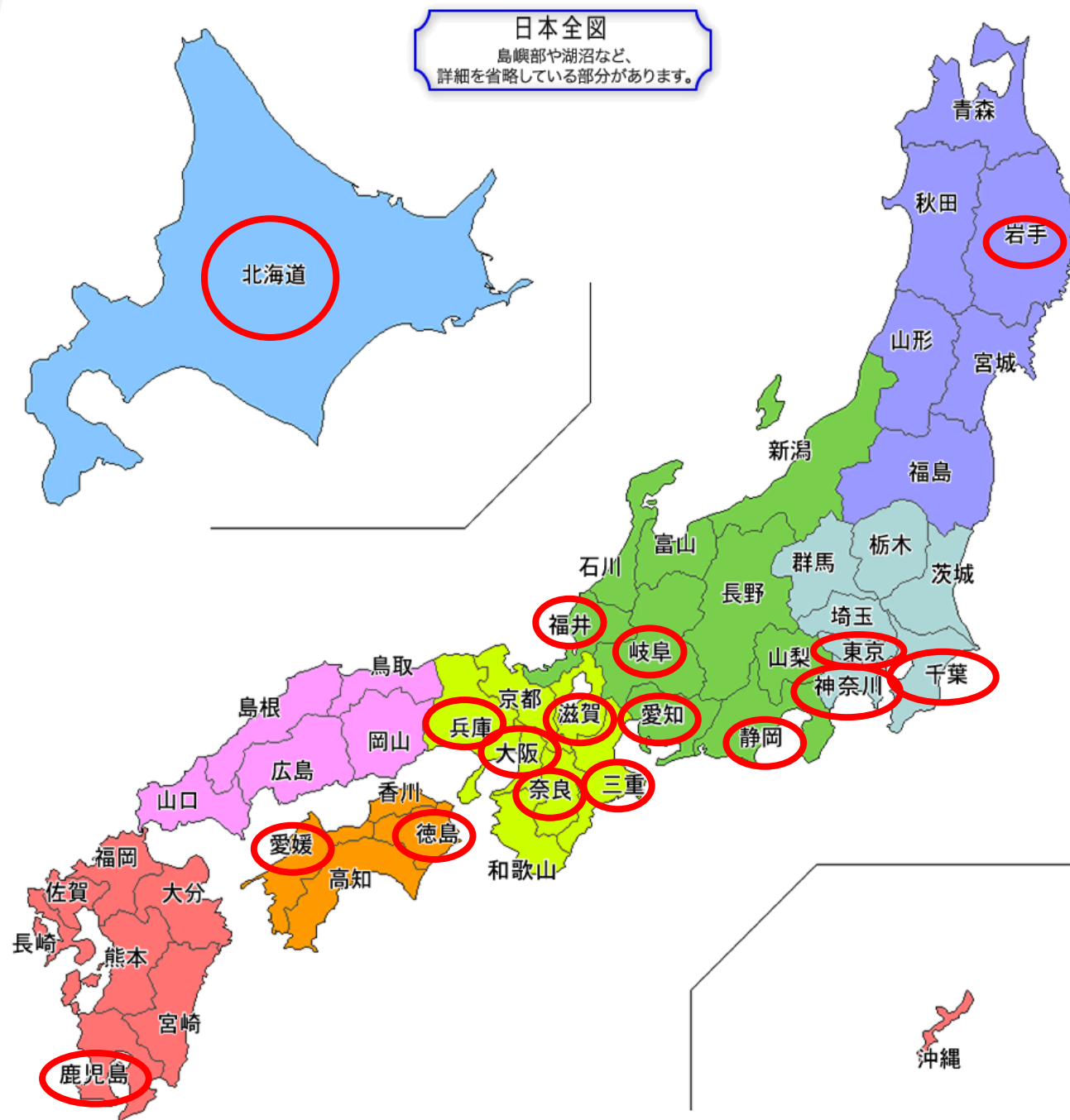
大阪市立大学

神戸大学

徳島大学

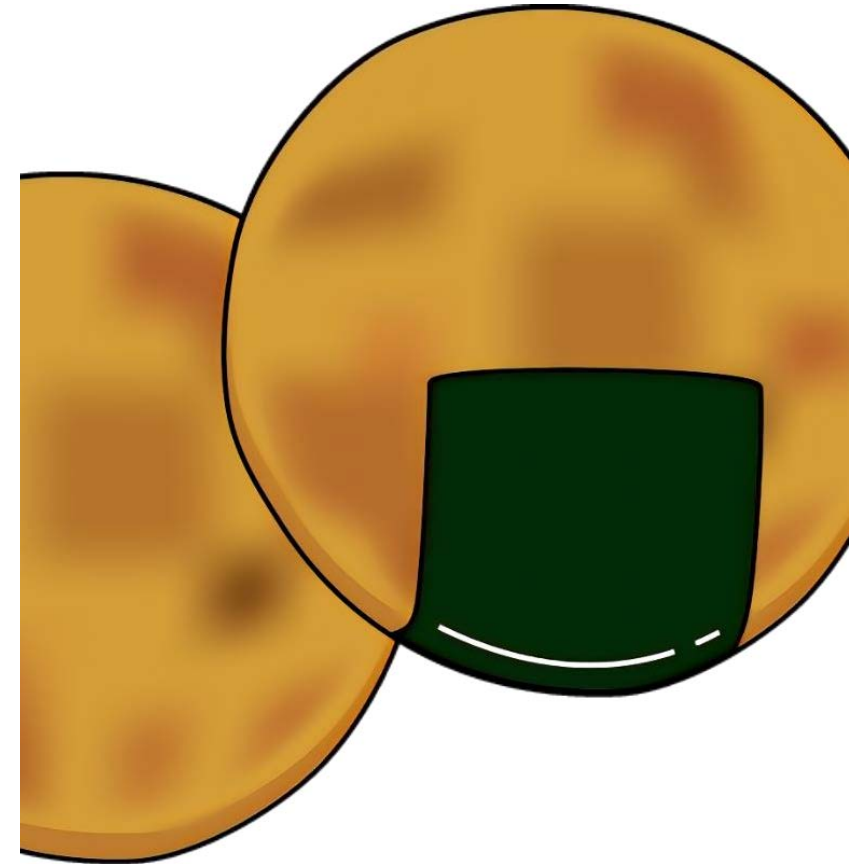
愛媛大学

鹿児島大学



2016年卒 浜松医科大学卒

- 埼玉県生まれ、大学時代以外はずっと関東で過ごしました。
- 東京医科歯科大学小児科医局所属
- 食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息とアレルギーのメジャーな3分野を満遍なく学べる三重病院での研修を希望し、東京から留学しに来ました。
- 日常診療で治療に難渋する症例へのアプローチの仕方、実際に長期入院を担当して学べること、プロの先生たちにすぐに質問できる環境はとても良いと思います！



2009年 東邦大学卒業

- 小児科医として順天堂大学で学んだ後に地元の千葉県の市中病院で一般小児を行っていました。
- 自分の専門性を高めるためにアレルギー研鑽を積みたいと思い、2023年（15年目）からお世話になっております。
- アレルギー外来では食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、薬物アレルギーなど、入院では経口負荷試験や免疫療法、アトピー性皮膚炎のスキンケアなどを担当し経験をさせてもらっています。
- 全国から集まったメンバーと藤澤先生、長尾先生の御指導の下、カンファレンス等で多くの最新情報を教えていただき、多くの臨床研究に触れることができます。
- アレルギー研修に興味がある方、ぜひ見学をお待ちしています。



2014年 三重大学卒

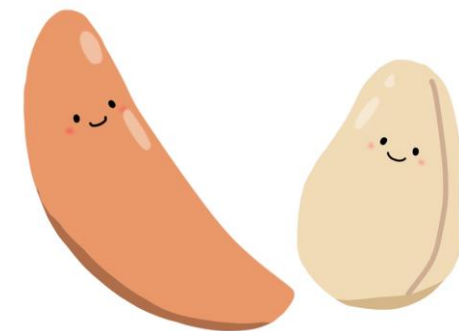


- 大学卒業後は三重県内で研修し、夫の海外転勤のため、約2年間休職しておりました。
- 帰国後は、三重県内の市中病院で復帰し、現在も引き続き勤務しております。途中、産休・育休もはさみました。
- アレルギーの勉強をするために、1年前より週1回三重病院で勤務しております。午前中は食物経口負荷試験、午後は外来診療を行い、先生方にたくさん教えていただきながら日々精進しております。
- 勤務先の病院で困ったアレルギー症例もカンファレンスで相談させていただいたりしています。
- 今まで学会発表の経験がほぼない状態でしたが、国際学会での発表の機会もいただき、手取り足取り教えていただきました。
- 藤澤先生や長尾先生をはじめ、同僚の先生方みなさま気さくでやさしく、楽しく研修させていただいています。研修方法に関しても親身になって考えて下さり、この様に研修させていただけることに感謝です。これからも頑張ります！



2015年 東京女子医科大学卒

- 2022年夏より週1回研修させていただいています。
- 大学卒業後は初期研修から地元の三重県に戻り、小児科に入局してからは三重県内のいくつかの病院で勤務させていただきました。三重病院にも合計1年ほど勤務させていただき、藤澤先生、長尾先生はじめとするアレルギー科の先生方に大変お世話になり、食物アレルギーに興味を持ち、アレルギーを勉強したいと思い今に至ります。
- 論文のご指導をしていただいたときは、出産前後ということもあり藤澤先生、長尾先生はじめアレルギー科の先生方に大変お世話になりました。（長尾先生には子どものお世話までしていただき、心から感謝しております。）
- 子どもの体調不良などで急にお休みをいただくこともありますが、アレルギー科の先生方が温かく受け入れてくださり、ご指導いただいています。また、病棟、外来の看護師さん、栄養士さんなどスタッフの方々もとても優しく、たくさんのことを教えていただけるためとても勉強になります。





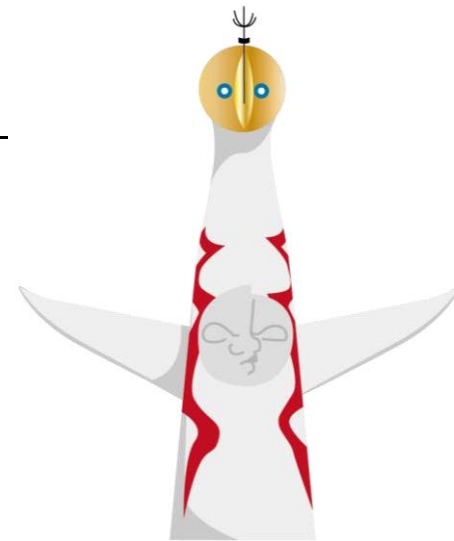
2016年 大阪市立大卒



- 幼少期から大阪で育ち、後期研修を終えるまでほぼ大阪で過ごしました。小児科後期研修の頃から食物負荷試験を担当したりする中でアレルギーに興味を持ち、後期研修を終えて卒後7年目からアレルギーをしっかりと勉強できる環境を求めて三重に来ました。
- アレルギー外来や食物負荷試験、経口免疫療法入院、アトピースキンケア入院、喘息教育入院、その他、臨床経験をたくさん積めることに加えて、臨床研究や大学院への進学などもできとても有意義な日々を過ごせています。
- 上級医の先生や学年が近い先輩方へ日々の症例や研究の相談事もしやすいです。webでの講演会や薬剤説明会の情報も得やすかったり、抄読会もあっていろいろな情報を得やすいのもうれしいです。
- 三重に来てからは職員宿舎に住まわせてもらっていますが、病院への距離も近く便利です。また、私は三重に来て数か月で子供も生まれましたが、部屋も広くて子育てもしやすいです。地元へも1-2時間程度で帰れる点も個人的にはよかったです。

研究テーマ：気管支喘息の予後・呼吸機能の改善

喘息に対する生物学的製剤導入後の呼吸機能の推移



自己紹介

- ・ 近畿大学医学部附属病院 小児科学教室 所属

2022年4月から三重病院へ国内留学中

- ・ 1985年10月11日 山口県岩国市にポンッと生まれる
- ・ 中学高校時代を広島で過ごす
- ・ 広島大学歯学部 → 近畿大学医学部
- ・ 趣味はトレイルラン（山の中を走るマラソン）
- ・ 2022年 165kmを完走し100milerとなる

現在、三重病院職員官舎に単身赴任中
三重病院での生活は超楽しいの一言

アレルギー外来や入院では小児に限らず原因不明のアナフィラキシーの精査や治験等もあり数多くのアレルギー疾患を学ぶことができます
毎日数時間あるカンファレンスも議論や最新の知見があり面白いです

寂しいのは子供に会えないこと
でもその気持ちを胸に今日も頑張ります！

研究テーマ：吸入ステロイド薬の全身的副作用の実態とリスク因子の解明
未治療喘息患児の治療導入を目的としたアプリ開発



2016年 近畿大学卒

- 自分自身も食物アレルギーやアトピー性皮膚炎があり、アレルギー疾患の勉強や臨床研究がしたいと思い、2021年(卒後6年目)から研修させていただいています。
- 外来でも入院でもたくさんのアレルギー疾患を経験でき、勉強になります。少しでも迷ったときはすぐに相談できますし、日々のカンファレンスを通じて他の先生方が迷った症例などからも学ぶことができます。
- 藤澤先生や長尾先生のお仕事が間近で見れます！お二人にもすぐに質問できるととても恵まれた環境です！
- 先生方も臨床研究部のスタッフの方々も本当に優しい方ばかりで、知識がなくても教えていただけます。
- 楽しく日々を過ごせますし、色々なことにチャレンジする機会がたくさんあるので、心が強くなります！！
- 研究テーマ：気管支喘息の予後



2014年 岐阜大卒

2020年秋（卒後7年目）から研修させていただいています。もともと、千葉県で小児科後期研修を行い、アレルギー疾患の勉強をしたいと思い、三重病院にやってきました。

研究テーマは、重症アトピー乳児の食物アレルギーの発症について、牛乳経皮免疫療法です。

アレルギー疾患はまんべんなく診療する機会があり、専門外来を行いながら、入院管理も行うことができます。また藤澤先生、長尾先生にすぐに質問でき、ご指導いただける環境であり、また様々な研究にも触れることができおり、大変勉強になっています。この年次で特定臨床研究の研究代表をさせていただいたりもします。国際学会などでの発表する機会も多いです。

コンビニが夜やっていないなど不便なこともたくさんありますが（笑）、ぜひ一度見学に来てください！

2024年度よりAMEDへ出向



2013年 福井大卒

地元の岐阜で初期研修から8年間を過ごし、2021年(卒後9年目)から三重病院で研修させていただいております。秋からは三重大の大学院にも入らせていただき日々精進しております。

アレルギー診療はほぼ未経験の状態でのスタートでしたのでとても不安でしたが、藤澤先生や長尾先生のご指導の下、充実した研修を送らせていただいております。また同じ志を持った同世代の同僚の先生方と一緒に過ごす日々はとても刺激的で何よりも楽しいです。

臨床研究や学会発表、論文作成など、慣れないことに戸惑う日々でもありますが、研究部のスタッフの皆様の力添えもいただきながら、アレルギー研修に集中できる環境が整っている場所だと思います。

研究テーマ：Apple Watchを用いたAD児の夜間の痒みの客観的評価





2012年 三重大卒

私は奈良県生まれ、三重大学出身で小児科専門医を取得後、アレルギーを専門としたいと思い、卒後8年目から三重病院でお世話になっています。学位、アレルギー専門医の取得を目指しています。

研究テーマは、乳児食物アレルギーの負荷試験、卵黄による食物蛋白誘発胃腸症、などです。

藤澤院長、長尾先生が指導者として、とても優しく、臨床も研究も初歩的なことから指導してくださいます。同じ研究室の本当にいい仲間に恵まれ、素晴らしい環境で研修、研究できています。

お二人の上司を通じて、他の施設の高名な先生方とお知り合いに慣れるのも、うれしいことの一つです。



2024年度より Cincinnati Children's Hospitalへ留学

2010年卒 神戸大卒

- 2019年から2022年3月まで三重病院に国内留学させていただきました。アレルギー診療に関しては外来、入院、負荷試験などを担当しましたが、患者様も多く、疾患の重症度、種類も様々であり、大変勉強になります。もちろん、自分の判断で迷うこともあります。その時にはカンファレンスですぐに相談できる環境があり、自身の知識、診療を振り返ることもできます。
- 研究に関しては、私自身、いろいろな研究に携わらせていただきました。気管支喘息や食物アレルギーの予後調査、鶏卵の経皮免疫療法などを行いました。今まで研究自体を行ったことはなかったので、日々新しい発見がありました。多施設の研究も計画することもあり、貴重な機会をいただいております。
- そして何よりも全国様々な場所から同様の志を持ってこられている同期が多く、毎日楽しく過ごせました。



2012年 浜松医科大卒

- 2019年度より浜松医科大学の大学院生として研修させていただきました。
- 学会では壇上でしか拝見できない藤澤先生、長尾先生の近くで働けることを嬉しく思います。素敵な上司と同じ志をもつ同僚と、身近な疑問から専門性の高い問題まで日々のカンファレンスや診療を通して臨床から研究を行える数少ない施設だと思います。
- 国内外の発表や研究テーマ、班会議の参加、論文作成など、様々な経験をさせていただき、自身の成長に大きくつながる研修だと思います。

• 何より、楽しいです！

- 研究テーマ：気管支喘息の予後
食物アレルギーの学校生活管理

※2021年から米国Mayo Clinic留学し、2024年度帰国



2011年 札幌医大卒

- 卒後8年目から2年間研修させて頂きました。
- 初学でも2年の研修でアレルギー診療の基本を一通りできるようになり、赴任後早々から外来診療を務め、自分で入院・治療・検査の方針を決定する診療ができます。
- 小児食物アレルギーだけでなく、成人診療や皮下免疫療法、臨床の疑問を解決するための基礎研究等を経験できる当院の様な施設は限られると思います。
- 私自身が、当院で行っているネコアレルゲン免疫療法を実施し、劇的な効果を得ました。
- 臨床研究では、経験症例からできたClinical Questionを解決する研究企画、企業と研究提携の相談、多施設共同研究の研究責任などの機会を得ました。診療能力だけでなく、国内留学から戻った後もオンリーワンの仕事をみつける武器を身に着けることができました。
- 研究テーマ：アレルギー疾患ハイリスク乳児予後調査、ナッツアレルギー、動物アレルギー





2011年 岐阜大卒

・2017年秋(卒後7年目)から所属先の岐阜大学医局と三重病院のご厚意により、当初の予定を延長して、3年間研修させていただきました。

・当院での研修の一番の魅力は、臨床だけでなく研究も並行して行えることです。自分のデスクが研究室の隣の部屋にあり、思い立ったらすぐに研究室に顔を出せますし、優しくかつ優秀な技師さん達にいつでも教えを乞うことができます。

・さらに大学院生として、“研究日”も確保して頂いており、研究に専念する日を作ることができます。

・一方で、アレルギー疾患以外の一般小児疾患も外来・入院問わず担当できるため、所属先の病院に戻った際も臨床の“勘”を忘れて困ることもないと思います。

・研究テーマ：稀少な食物アレルギー、URARastudy



2009年 奈良県立医科大学卒

- 大学卒業13年後から三重病院で研修させていただきました。
- 卒後は京大関連の市中病院で研修し、その間、2人分の産休・育休をはさみ、海外生活も経験しました。
- 帰国後、長期的な人生設計をもとに、三重病院の恵まれた環境での臨床・研究経験に魅力を感じ、藤澤先生、長尾先生の下で日々精進させていただいております。
- アレルギー学会ではご高名なお二人ですが、とても気さくで、しかも熱意溢れる同僚のもとで毎日のカンファレンスがとても刺激的です。
- また、上司に育児を経験されている先生がいらっしゃると頼りがいがあり、心強いところです！



2010年 滋賀医大卒

- アレルギーの最新かつ最善の研鑽を積める病院を求め医師7年目に三重病院の門を叩きました。約1年半を三重病院で臨床医 兼 大学院生として過ごし、徳島大学との共同研究をきっかけに本格的な基礎研究を行うため、現在は徳島大学で国内留学中です。（研究テーマは『食物アレルギーの新規治療法および新規バイオマーカーの開発』です）
- 三重病院での生活は、うっかり御高名な先生方であることを忘れてしまうほどアットホームな、でも間違いなく最前線の最新医療知識が飛び交うカンファレンスが毎日あり、日々非常に勉強になります。
- 学会発表の機会が頻繁にありプレゼンが上達します。（学会で**最優秀演題賞**を受賞させて頂きました！！）
- 初めての国際学会に一人で参加するという無茶ぶりの試練を与えられましたが、三重病院という大きな後ろ盾のお陰で、海外で出会ったたくさんの御高名な日本の先生方に非常に親切に接して頂きました☆
- 国内国外問わず、熱意溢れる同じ志を持つ方々との出会いが多いため、自分自身の人脈も広がります！
- 同時に、地域に根差したアレルギーの啓蒙活動（市民講座や喘息キャンプなど）も第一線でお手伝いさせて頂けるので、コメディカルの方々とも仲良くなれますし、何より『社会全体の意識付け』について考えさせられ、非常に勉強になります！！



2009年 三重大卒 感染症フェロー



- 三重大学医学部を卒業後、県内の二次病院、三重大学病院で後期研修を行い、その後感染症分野に興味を抱き、三重病院の大学院に進学しました。
- 自分で同意をえて採取した検体を、研究室にて自分でRNAを抽出し、Real-time PCRを行い、診断できたときは、感動を覚えました。
- **全国規模の感染症研究**に複数参加することができます。
- アレルギー・免疫抄読会は読解困難なNature, Nature immunology, Nature Medicine, Science等を読むようにしており、読むのに1か月かかりますが、非常に勉強になります。
- 様々な地域からフェローが集まるため、「全国区だと思っていた駄菓子」が、東海ローカルであった。」と知ることができ、全国から人があつまる場のメリットと痛感しました。

2009年卒 愛媛大卒

- 愛媛大学卒業後、医師 7 年目から2年半、三重病院で研修をしていました。
- 私は愛媛大学の大学院生としてお世話になりまして、三重病院でアレルギー診療・研究に携わりながら、三重大学免疫学教室とコラボした好酸球に関する基礎研究も行うという非常に充実した環境をいただくことができました。
- 三重病院では海外学会の発表も積極的に御指導いただけるので、研修中は毎年、海外学会で発表をするという貴重な経験をさせて頂きました。また、学位論文だけでなく、再投稿を検討していた論文の御指導まで頂くことができました。
- コメディカルさんも優しく、熱心な方ばかりで、非常にオススメな研修先です。ぜひ、一度見学に行ってみてください！

※2021年度より厚生労働省 健康局がん・疾病対策課にて勤務後、2024年度より三重病院へ帰還。



2007年 鹿児島大卒



研修前の経験は関係ありません！
三重病院のスタッフを信じて、
是非飛び込んでみて下さい！！

- 医師10年目まで、アレルギー専門医の指導を受けたり診療の見学をしたりしたことがほとんどない状況で三重病院での専門研修が始まりました。
- 何より、三重病院の素晴らしいところは「自分でやらせてもらえる」ところだと思います。
診療も、研究も、初めは手取り足取りだったのが気がつけば一人で色々なことを決めて行動するようになっていました。
- 毎日のカンファレンスは臨床だけでなく研究の議論も活発に行われるため、自分の決定したこと、悩んだことについて上級医や同僚の意見や指導をすぐに聞くことができるので、2年間の毎日がアレルギー診療・研究の進め方、壁に当たった際の解決法などの学びの連続でした。徐々に、受け売りではなく自分の考えで、上級医や自分より経験のある同僚と同じ方針にたどり着けるようになり嬉しく思ったことが心に残っています。
- 国内留学後、故郷でアレルギー診療に携わったり後輩に指導したりする中で、「教わった」ではなく「やり方を身につけさせてもらった」ことの有り難みを強く感じています。



もう、指導医お二人の高い能力と人柄抜きには語れません。何でも何とかしてくれます。

NHO NEW WAVE

研修医・専修医のためのコミュニケーション情報誌 NHOニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 刊行日：2019年 冬号

**独立行政法人
国立病院機構**
National Hospital Organization

巻頭特集
SPECIAL

若手医師フォーラム



僕みたいに
頑張れば、
君も受賞で
きるよ！

Special 特集：若手医師フォーラム

日常の診療で抱いた疑問を臨床研究へ。
若い発想を活かして意欲的に挑戦しよう。

2019年11月9～10日、水戸医科歯学大学第2講堂で開催された第1回「若手医師フォーラム」が盛況的に行われた。今回のテーマは、「令和にむけて自己医療の積極的・適切な実践」。参加者は多岐にわたる専門分野から集まり、活発な議論や質問応答セッションが行われ、会場中、関心を持って聴き入る医師が多く見られた。

このフォーラムは国立病院機構に所属する若手医師を対象としたもので、各自が取り組んでいる臨床研究について発表する機会を確保するとともに、交流の場を作ろうという目的で開催されている。

今回は全出席者の総数に対して2割の人数が、10名以上発表による公開セッションという形で発表されました。

1日講演で研修医に贈った大田愛美先生（岡山県立小幡大正記念こころ病棟）、ベストエッセイ賞に選ばれた生田真紀子先生（熊本県立総合医療センター）と野村望子先生（千葉県葛飾区）にお話を伺いました。また、研修医の人生相談、小児科生には好評だった国際学会への参加費が補助されます。

臨床研究部メンバー

小児科医	21名
アレルギー指導医	3名
アレルギー専門医	8名
アレルギーフェロー	10名 (うち3名は非常勤)
後期研修医	2名
臨床研究部検査技師	3名
臨床研究部事務員	6名
留学生（ガーナ、ザンビア）	2名

2024年3月時点



※2023年4月に撮影

2023年4月から新しく2名の医師が研修を開始されました！

日々のカンファレンス

- 当日のOFC結果、翌日のOFC予定
- 外来症例の相談
- 入院症例の相談

• 雑談

新規研究の草案

フランクに質問

好き勝手しゃべる

間違ってもいい

アホな質問OK



CQがうまれる

突然の人事

上司の経験談

知らなかった知識



臨床研究部長 長尾みづほ 先生より



- 患者さんにとって最適な医療とは何でしょう？
- まだ研究レベルの治療に挑戦したり、ガイドラインを熟知した診療も大事です。そのためには十分な知識が必要です。
- それと同時に患者さんに寄り添い、お子さんの置かれた環境、性格、負担感、期待などを多面的に捉え、医師と医療スタッフが一緒に取り組んでいくことも小児の慢性疾患を診る上で大変重要なことです。
- 三重病院は比較的小さな病院ですが、その分小回りがきいていて、これらをすべて担っています。
- 是非、一度見学に来てください。



走り続けよう！

いつも新しく
いつも楽しく

特別診療・研究役
藤澤隆夫

アレルギー専門研修の勧め

- アレルギー専門医資格取得
- General Pediatricsの基礎の上に、高い専門性を身につける（内科・耳鼻科でも可能です）
- 臨床だけでなく、研究の方法論を習得して、エビデンス創出ができる臨床医 physician scientist になる
 - Basic Research
 - Clinical Research
- 立ち止まるな！
新しいことをみつけるために
- 新しいことの発見は楽しい！！

三重大学連携大学院で医学
博士取得も可能

学位取得後は
海外留学も可能

臨床と研究は車の両輪

研究のヒントは患者さんからのClinical Question
研究で培う科学的な考え方が患者さんの治療に生きる
自らの創出するエビデンスが日本の医学の進歩に貢献
ーたとえ、小さなことでも、エビデンス
ー小さなことの積み重ねが、いつか大きなエビデンスに！

- 寺田明彦 (小児科医師) * *名古屋市立大学大学院
Terada A, Fujisawa T, Togashi K, Miyazaki T, Katsumata H, Atsuta J, Iguchi K, Kamiya H, Togari H. Exhaled nitric oxide decreases during exercise-induced bronchoconstriction in children with asthma. **Am J Respir Crit Care Med** 2001; 164: 1879-1884.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 加藤佳子 (看護師)
Kato Y, Fujisawa T, Shibano M, Saito T, Gatto W, Kamiya H, et al. Airway epithelial cells promote transmigration of eosinophils in a new three-dimensional chemotaxis model. **Clin Exp Allergy** 2002; 32:889-897.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 細木興亜 (小児科医師)
Hosoki K, Nakamura A, Nagao M, Hiraguchi Y, Tanida H, Tokuda R, Wada H, Nobori T, Suga S, Fujisawa T. Staphylococcus aureus directly activates eosinophils via platelet-activating factor receptor. **J Leukoc Biol** 2012; 92: 333-341.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 平口雪子 (小児科医師)
Hiraguchi Y, Tanida H, Sugimoto M, Hosoki K, Nagao M, Tokuda R, Fujisawa T. 1,25-dihydroxyvitamin d3 upregulates functional C-x-C chemokine receptor type 4 expression in human eosinophils. **Int Arch Allergy Immunol** 2012; 158: 51-57.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 古屋かな恵 (管理栄養士)
Furuya K, Nagao M, Sato Y, Ito S, Fujisawa T. Predictive values of egg-specific IgE by two commonly used assay systems for the diagnosis of egg allergy in young children: a prospective multicenter study. **Allergy** 2016; 71: 1435-1443.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 杉本真弓 (小児科医師) * *徳島大学大学院
Sugimoto M, Kamemura N, Nagao M, Irahara M, Kagami S, Fujisawa T, Kido H. Differential response in allergen-specific IgE, IgGs, and IgA levels for predicting outcome of oral immunotherapy. **Pediatr Allergy Immunol** 2016; 27: 276-282.
[Corresponding author: Hiroshi Kido]

- 水野友美 (臨床心理士)
Mizuno Y, Ohya Y, Nagao M, DunnGalvin A, Fujisawa T. Validation and reliability of the Japanese version of the Food Allergy Quality of Life Questionnaire-Parent Form. **Allergol Int** 2017; 66: 290-295.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 貝沼圭吾 (小児科医師)
Kainuma K, Kobayashi T, D'Alessandro-Gabazza CN, Toda M, Yasuma T, Nishihama K, Fujimoto H, Kuwabara Y, Hosoki K, Nagao M, Fujisawa T, Gabazza EC. beta2 adrenergic agonist suppresses eosinophil-induced epithelial-to-mesenchymal transition of bronchial epithelial cells. **Respir Res** 2017; 18: 79.
[Corresponding author: Esteban C. Gabazza]
- 中村晴奈 (小児科医師)
Nakamura H, Fujisawa T, Suga S, Taniguchi K, Nagao M, Ito M, Ochiai H, Konagaya M, Hanaoka N, Fujimoto T. Species differences in circulation and inflammatory responses in children with common respiratory adenovirus infections. **J Med Virol** 2018; 90: 873-880.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 桑原優 (小児科医師) * *愛媛大学大学院
Kuwabara Y, Nii R, Tanaka K, Ishii E, Nagao M, Fujisawa T. Season of birth is associated with increased risk of atopic dermatitis in Japanese infants: a retrospective cohort study. **Allergy Asthma Clin Immunol** 2020; 16: 44.
[Corresponding author: Yu Kuwabara]
- 今給黎亮 (小児科医師) * *鹿児島大学大学院
Imakiire R, Fujisawa T, Nagao M, Tokuda R, Hattori T, Kainuma K, Kawano Y. Basophil Activation Test Based on CD203c Expression in the Diagnosis of Fish Allergy. **Allergy, asthma & immunology research** 2020; 12: 641-652.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- Yasmeen Al Hawi (エジプトからの留学生：小児科医師)
Al Hawi Y, Nagao M, Furuya K, Sato Y, Ito S, Hori H, Hirayama M, Fujisawa T. Agreement between predictive, allergen-specific IgE values assessed by ImmunoCAP and IMMULITE 2000 3gAllergy™ assay systems for milk and wheat allergies. **Allergy Asthma Immunol Res** 2021; 13: 141-153.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]

- 平山淳也 (小児科医師)
Hirayama J, Fujisawa T, Nagao M, Kuwabara Y, Kainuma K, Azuma Y, Ono J, Ohta S, Hirayama M, Izuhara K. Squamous cell carcinoma antigens are sensitive biomarkers for atopic dermatitis in children and adolescents: a cross-sectional study. **Asia Pac Allergy** 2021; 11: e42.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 山田慎吾 (小児科医師)
Yamada S, Fujisawa T, Nagao M, Matsuzaki H, Motomura C, Odajima H, Nakamura T, Imai T, Nagakura KI, Yanagida N, Mitomori M, Ebisawa M, Kabashima S, Ohya Y, Habukawa C, Tomiita M, Hirayama M. Risk Factors for Lung Function Decline in Pediatric Asthma under Treatment: A Retrospective, Multicenter, Observational Study. *Children (Basel)*. 2022 Oct 4;9(10):1516
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- Prince Baffour Tonto (ガーナからの留学生)
Tonto PB, Nagao M, Suga S, Taniguchi K, Hirayama M, Nakayama T, Kumagai T, Fujisawa T; Influenza Vaccine Study Group. High prevalence of IgE sensitization to inactivated influenza vaccines, yet robust IgG4 responses, in a healthy pediatric population. *Influenza Other Respir Viruses*. 2022 Sep 9.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 高瀬貴文 (小児科医師)
Takase T, Nagao M, Kanai R, Nishida T, Arima T, Yamada S, Nakamoto M, Hirayama M, Fujisawa T; Intake of allergenic foods at 1.5 years and 3 years of age in a general child population in Japan: a cross-sectional study. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 2022 Dec 7.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 野上和剛 (小児科医師) *
Nogami K, Nagao M, Takase T, Yasuda Y, Yamada S, Matsunaga M, Hoshi M, Hamada K, Kuwabara Y, Tsugawa T, Fujisawa T. House dust mite subcutaneous immunotherapy and lung function trajectory in children and adolescents with asthma. *Children* 2022; 9: 487-497.
[Corresponding author: Takao Fujisawa]
- 松永真由美 (小児科医師) *
Mayumi Matsunaga, Yasunori Sato, Mizuho Nagao, Masanori Ikeda, Chikako Motomura, Makoto Kameda, Yukinori Yoshida, Akihiko Terada, Isao Miyairi, Takao Fujisawa and the LePAT investigators Development and validation of a new asthma questionnaire to help achieve a high level of control in school-age children and adolescents *Allergology International* (in press)
[Corresponding author: Takao Fujisawa]



三重病院からの海外留学

- 藤澤隆夫 (小児科医師)

Department of Immunology, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota, USA

- 盆野元紀 (小児科医師)

Department of Immunology, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota, USA

- 熱田純 (小児科医師)

Department of Immunology and Medicine, Johns Hopkins University, Baltimore, USA

- 寺田明彦 (小児科医師)

Department of Immunology, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota, USA

- 細木興亜 (小児科医師)

Department of Immunology and Medicine, University of Texas Medical Branch and Baylor University, Galveston and Houston, Texas, USA

- 松永真由美 (小児科医師)

Department of Immunology, Mayo Clinic, Phoenix, Arizona, USA

- 山田慎吾 (小児科医師)

Cincinnati Children's Hospital Medical Center Division of Allergy & Immunology





國家驕傲的大學

成功大學

National Cheng Kung University

An Engaged Academy

International Program

1-2週間の海外短期研修（アジア）
韓国・台湾の医療事情を知ることができる
友人ができる
先方からの若手医師も来日
英語でのカンファレンスに慣れる

- Inje University, Sanggye-Paik Hospital, Seoul, Korea
仁濟大學校(韓国 ソウル市)
- Professor Chang-Keun Kim
- Kyun-hee University Hospital, Seoul, Korea
慶熙大學校(韓国 ソウル市)
- Professor Yeon-Ho Rha
- National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan
國立成功大學(台湾 台南市)
- Professor Jiu-Yao Wang

韓国・台湾の
共同研究施設との
交換短期研修



卒業生の多様な進路

2006年
三重大卒



2012年より当院で研修

2017年
厚生労働省

2021年
小児科クリニック開業

2011年
札幌医大卒



2019年より2年間研修

札幌に戻り小児アレルギー
診療の発展に尽力

2007年
鹿児島大卒



2017年より2年間研修

鹿児島に戻り小児アレルギー
診療の発展に尽力

2010年
滋賀医大卒



2017年より1.5年間研修

徳島大学先端酵素学研究所

2012年
浜松医大卒



2019年より2年間研修

Mayo clinic 留学



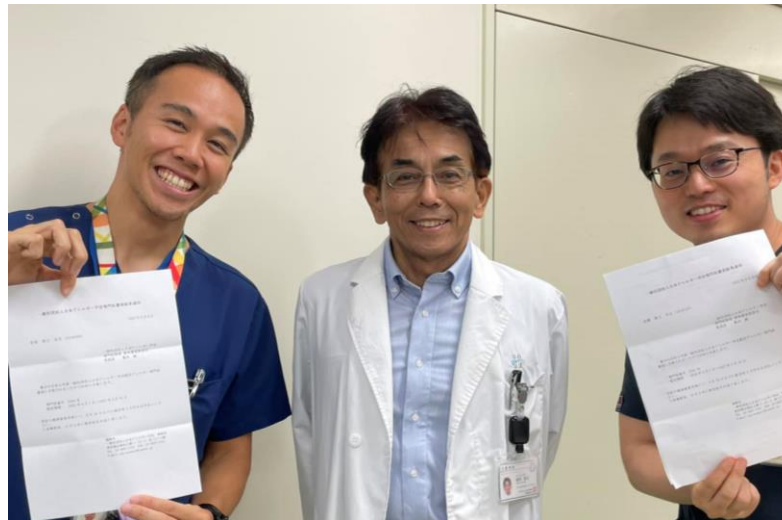
最高の上司

- 優しく、面倒見が良い
- 子育てに理解がある
- 顔が広いので、他の施設の先生方とお知り合いになれる
- 卒業生とのつながりを大事にしている





北海道から研究相談に



ハワイの学会参加



楽しく海の幸BBQ



アレルギー専門医合格報告



楽しい飲み会



しまじろう来棟



アフリカからの留学生

最高の仲間



アレルギーを学びたい、 国内留学をしたい先生方へ

- 当院はいつでも見学、ご相談を受け付けております。(オンライン可)
- 見学希望、ご相談などありましたら、Tel：059-232-2531から見学希望とお伝えいただければ、係りの者が対応いたします。
- 病院敷地内の研修宿泊施設の貸し出しもあります。
- メールでもご相談ください。以下を記入し、
メールアドレス：mieclinicalresearch@gmail.comにお送りください。

件名：見学希望

ご芳名(必須)(氏名・ふりがな)
連絡先メールアドレス(必須)

※原則、メールにて見学や研修の連絡させていただきますので、

必ず連絡がつくメールアドレスをご記載下さい

所属機関(必須)(正式名・ふりがな)
所属機関住所(必須)(正式名・ふりがな)
所属機関電話番号(必須)(正式名・ふりがな)
卒業大学(必須)、卒業年度(必須)
生年月日(必須)
研修歴(必須)
見学の希望日時(おおよそ)

- FaceBook：国立病院機構三重病院アレルギー科からのダイレクトメッセージでもOKです。
- 皆様と共に働き、研究できることをお待ちしております。